

## Recherche 00016 プリーテッドドレス仕様書

布帛用

パターンパーツ数 2

後あき(コンシールファスナー)有り

前後身頃インバイテッドプリーツ有り

コンシールファスナー・伸び止めテープ使用

サイズ	80	90	100	110	120	130	
着丈	46.5	50.5	57	62	65	68.5	
肩巾	17	18	19	20.5	22	23	
バスト	50	53.5	56	59	62.5	65.5	
蹴回し	44	48	52	58	63.2	68	
後あき寸	28	29	30	31	32	33	
用尺	90巾	112	121	134	145	151	158
	110巾	〃	〃	〃	〃	〃	〃

パターンにはステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。  
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転売はご遠慮ください。

**■ 用語**

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

**■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。****■ コンシールファスナーは後あき寸より3 cm以上長いものを用意してください。****■ わかりやすくする為、画像のサンプルは寸法や糸の色を変えてあります。全体のバランス等、実際のものとは異なりますのでご注意ください。**

## ----- 作り方 -----

**裁断**

地の目線を確認し、生地の方に注意しながら裁断します。

**ノッチ(合印)を入れます**

※プリーツ線には切り込みを入れずにチャコペン等でしるしを付けます。

※ノッチとは、縫い代に0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

**伸び止めテープ(接着芯)を貼ります**

後 SL に 5 mm巾の伸び止めテープを貼ります。

※出来上がり線が伸び止めテープの中央を通るように

CBのあきの縫い代部分に10~15 mm巾の伸び止めテープを貼ります。

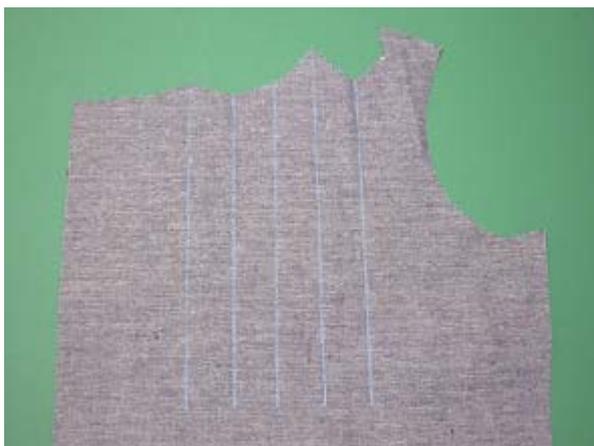
※ あき止まりより1.5~2 cm長く貼ります。

空ロックをかけます

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「前・後身頃の SL」「前・後身頃の脇」「CB」にかけます。

プリーツを縫います

プリーツの両端のプリーツ線を中表に重ね、縫い止まり位置まで直線ミシンで縫い合わせます。



縫い合わせた「縫い目」と「真ん中のプリーツ線」を重ね合わせアイロンをかけます。



裏側からプリーツの両端にコバステッチをかけます。



※あき止まり位置から弧を描くように縫い始め、プリーツの端はコバステッチをかけます。

※反対側から見たところ

※弧を描くように縫うことで負荷が均等に分散します。



もう片方も同様にステッチをかけます。

※反対側から見たところ

ファスナー付け ※あき止りより3 cm以上長いファスナーを用意します

左右の後身頃を中表に合わせ「あき止り～裾」を直線ミシンで縫い合わせます。

※縫い始めと縫い終わりには返し縫いをします。

縫い目の長さを大きくし、「あき止まり～衿ぐり」に粗ミシン(ミシンじつけ)をかけます。

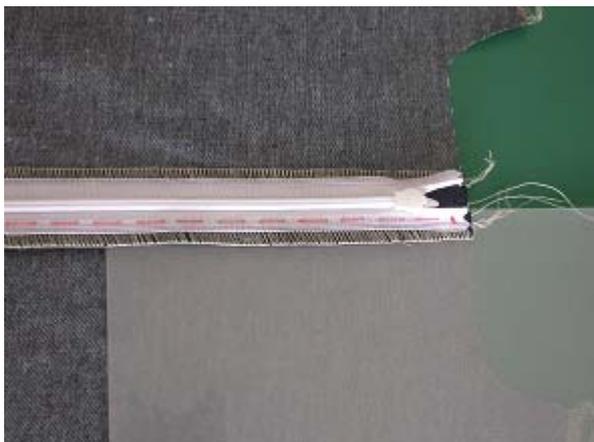
※縫い始めと縫い終わりは糸を長く出して切ります。

※返し縫いはしません。

アイロンで縫い代を割ります。



(※上画像にはありませんが、実際はあきの縫い代に伸び止めテープが貼ってあり、プリーツがすでに縫ってある状態です。)



縫い代の下にクリアフォルダ等を敷き入れ、ファスナーを縫い代のみにしつけします。

※ しつけはあき止まりの 5 cm 上までします。

※ しつけの代わりにくものすテープを使うと簡単です。



両側にしつけをし、「あき止まり～衿ぐり」にかけた粗ミシンをほどこき、スライダーをあき止りより下まで下げます。

あき止り位置にチャコペン等で印を付けます。  
押さえをコンシールファスナー押さえにします。  
縫い目の長さを元に戻します。



務歯(ムシ:かみ合う部分)を押さえの溝にはめ込み縫います。

※ 上止め具の位置から縫い始めます。  
※ 縫い始めは返し縫いをし、務歯を起こしながら務歯の際を縫います。



しつけの終わり位置(あき止りより 5 cm 上)まで縫い、針を下げたまま縫い線のバランスを見ます。

しつけ終わり位置～あき止り位置まで縫い進める間に 1.5～2 mmほど布端へそれるように縫います。

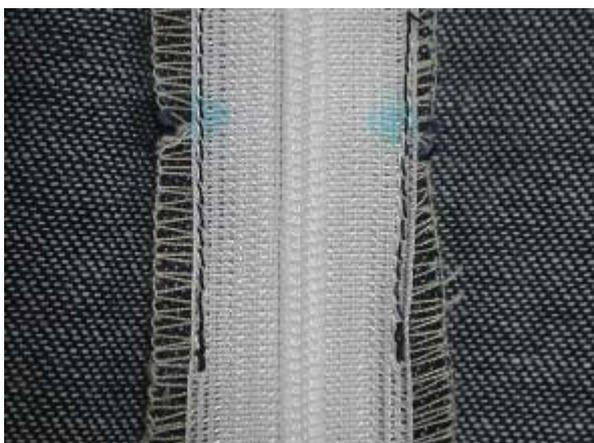
あき止りよりさらに 1～2 針縫い進め、返し縫いをして糸を切ります。



※反対側から見たところ

もう片方も同様に縫います。

縫い終わったらスライダーをあき止りより上に引き上げます。



「衿ぐりより 12～13 mm 下～あき止りより 2 cm 下」までファスナーの端をそれぞれの後身頃縫い代に縫い付けます。

※ 身頃の縫い代だけに縫い付けます。身頃は縫いません。

ペンチ等を使い、フリー下止め具をあき止りの 5 mm 上に固定します。

身頃脇・SLを縫い合わせます

「前・後身頃」を中表に重ね、「脇」を直線ミシンで縫い合わせます。

「前・後身頃のSL」を直線ミシンで縫い合わせます。



ただただプリーツの縫い代の先端がSLにかかるので、SLの出来上がり線より1~2mm控えて切り落とします。(※SLの縫い代を割った時に出来上がり線にかからないよう、生地  
の厚みによって加減します。切り落とし過ぎると縫い代に隠れなくなるので注意します。)

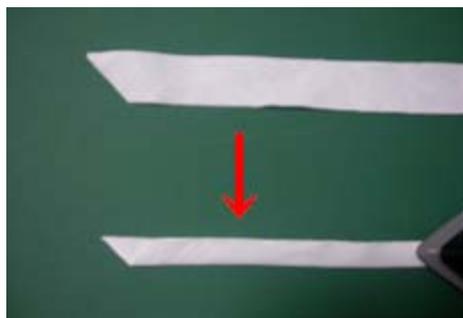
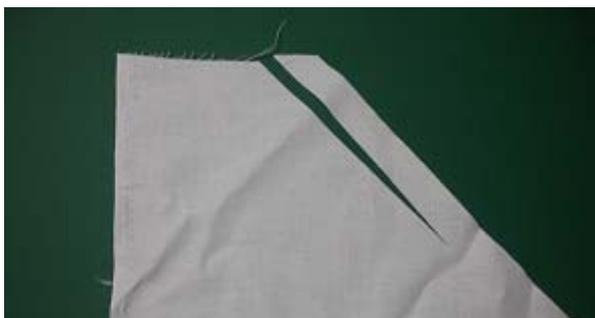




SLをアイロンで割ります。  
 (※プリーツの先端はSLの縫い代の下に隠します。)

#### 衿ぐりバイヤス始末

※6mmと細めのバイヤステープ処理をするため、ここでは縫い外しにくい方法で始末します。



バイヤスに18mm巾で布を裁ちます。  
 外表になるよう半分にアイロンで折ります。  
 衿ぐり・袖ぐり分を用意しておきます。



右CBの表にバイヤステープを重ね、衿ぐりの縫い代が布端より2mm覗くように合わせます。

※ ファスナーを縫い込まないよう折り返しておきます。



CB の出来上がり線で中表に折ります。



衿ぐり出来上がり線を縫います。  
縫い終わりの左 CB も右 CB 同様にします。  
※縫い始め・縫い終わり共に返し縫いを  
します。



縫い代のはみ出した部分を切り落とします。



縫い目を切らないよう注意しながら切り  
込みを入れます。  
※カーブは多目に入れます。



バイヤステープの縫い始めと縫い終わりを表に反します。  
ファスナーの端をバイヤステープを折り込んだ時に少し隠れる程度に切り落とします。



バイヤステープを裏側に折り、裏側からコバステッチをかけます。  
※縫い始め・縫い終わり共に返し縫いをします。

### 袖ぐりバイヤス始末



後身頃の表にバイヤステープを重ねます。

バイヤステープの端を折り返し、袖ぐりの縫い代が布端より 2 mm 覗くように合わせます。

※ごろつきを防ぐ為、後身頃脇の縫い代より少し後方から縫い始めます。



縫い始めは返し縫いをせず、出来上がり線を縫い進めます。



袖ぐりを一周縫い、縫い始めのバイヤステープに縫い終わりのバイヤステープを重ね縫います。

※脇の縫い代は割ります。

※バイヤステープの最後は折り返さず、返し縫いをします。

～衿ぐりと同様に～

縫い代のはみ出した部分を切り落とします。

縫い目を切らないよう注意しながら切り込みを入れます。(※カーブは多目に入れます)

バイヤステープを裏側に折り、裏側からコバステッチをかけます。

### 裾始末

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「裾」にかけます。

※作動送り機能がある場合は縮めながらロックをかけます。

出来上がり線をアイロンで折り、まつり縫いもしくはステッチをかけます。

### スプリングホック

CBの一番上にスプリングホックを縫い付けます。

-----完成-----